

保護者にも実効がある子供向け防災絵本の提案 —市民の防災力向上に向けて その19—

正会員 ○ 渡邊 愛美*1

正会員 石川 孝重*2

防災教育
保護者地震
啓発幼児
絵本

§ 1 はじめに

地震はいつ発生するか分からない災害であるため、多くの市民は、不安はあっても備えができていないのが現状である。そのため「地震に対する意識付け」を目的とした早期防災教育が重要になる。これまでの調査から、子供が幼ければ幼いほど、非常時の保護者の適切な行動が重要であると分かった¹⁾。本研究では子供だけではなく大人も含めた社会の防災意識の高揚を目的としている。調査²⁾によると、幼児期の年齢の子供が親と一緒にいる時間が最も長く、またそのとき遊ぶものでは絵本が多いため、親と子供と一緒に学べる防災絵本の作成を試みた。

§ 2 絵本に含める知識の検討

絵本の対象が子供と保護者であるため、それぞれに必要な防災知識を絵本の中に含められるよう内容を検討した。

防災知識について調べる^{3,4)}他と、大人向けに知識を提供している媒体が多かったため、保護者向けの防災知識の検討を行い、その後、子供向けの内容を検討することとした。絵本が子供向けであり多くの知識を含めることに適していないため、大人向け防災知識というキーワードで集めた資料^{3,4)}他を、防災知識の項目ごとに集計した結果をふまえて上位5位までを、絵本に含める保護者向け防災知識とした。その結果を表1に示す。

表1 絵本に含める防災知識のまとめ

絵本に含める防災知識	子供向け	保護者向け
①まず身を守り、慌てて外に出ない	○	○
②避難するときは狭い路地やブロック塀、崖や川べりに近づかない	○	○
③非常用品を備えておく	○	○
④屋内の地震対策	×	○
⑤火が出たときどうするか	×	○

保護者向けの内容から、幼稚園児の年齢では、どのような防災知識が適切であるかを判断するために、国の防災教育に対する指針⁵⁾と、親が子供に教えたい防災知識のアンケート結果⁶⁾を参考に子供向け防災知識を検討した。アンケート結果と、保護者向け防災知識の中に共通する項目を表1のように子供向けの防災知識とし、それぞれに知識の関連性をもたせ、保護者への影響力を重視した。

§ 3 絵本の構成と形式の検討

絵本は、保護者と子供それぞれに必要な知識を効果的に含めるために、同一ページ内に絵本の内容を載せる子

供向けの部分と、絵本の中に含めることのできない詳細な知識を載せる保護者向けの解説部分から構成する。

子供向け知識を含めた「絵本の内容」部分と「保護者向け解説」部分のレイアウトを図1に示す。

子供に保護者が読み聞かせる、あるいは子供が読む場合は、「保護者向け解説」部分を折りたたんで子供に見えないようにし、保護者だけで読むときは、折りたたまずに両方が見えるようにする。

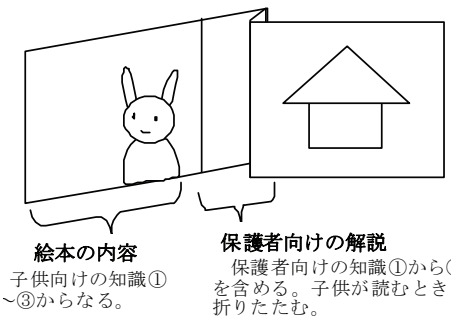


図1 絵本のレイアウト

このように、対象によって違う必要な知識を効果的に見せる工夫をした。

子供向け絵本は、子供と保護者が楽しめることに重点をおいた「ストーリー性があり、しかけのある形式」とする。地震発生から避難場所まで避難する流れの中に、子供向けの知識①から③を加えストーリーを作成した。保護者向けの知識①から⑤は保護者向け解説部分に含める。

作成した防災絵本の「絵本の内容」部分と「保護者向け解説」部分と、しかけの有無を含めた全体の絵本の構成を表2に示す。表2の防災知識①～⑤は表1に対応している。

§ 4 プレ調査による評価と改訂

このように作成した絵本をもとに、大学生と専門家に

表2 絵本全体の構成

ページ	絵本の内容部分に含まれるもの		保護者向け解説部分に含まれるもの		備考
	絵本のストーリー	防災知識	解説内容	防災知識	
1-3p	イントロダクション		絵本の目的・地震について・震度について		
4p	うさぎの家で地震がおこる		〇〇にいるとき地震が起きたらどうするか		＊しかけ
5p	慌てて主人公が外に出ようとする	①		① ⑤	(＊しかけ)
6p	家の中がぐちゃぐちゃなので避難しようかと話し合う		屋内の地震対策について	④	
7p	避難する準備をする	③	非常用品について	③	＊しかけ
8p	避難中、外で危険な場所に遭遇する	②	避難する時に注意すること	② ②	
9p	避難場所にたどり着く		避難場所について		
10-12p	夢からさめて母親と話す		帰宅困難者について全体のまとめ		

対してプレ調査を行い改善したものを図2に示す。

図2の上部にあるものが改善前のものであり、下部にあるものが改善後のものである。

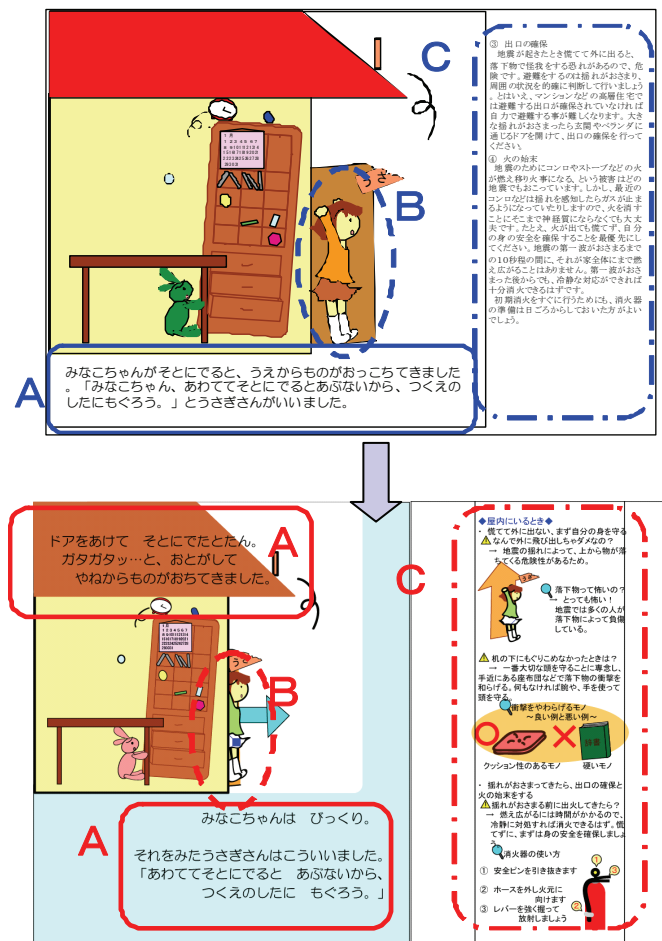


図2 絵本の改善

指摘をふまえた改善点は大きく分けて3つある。絵本については文字と絵のバランスを調整したほうがよいという指摘から、図2のAのように絵を若干小さくして、文字列を分散させるなどの工夫をした。また、しかけが2箇所だけでは少ないという指摘より、図2のBのように、主人公がドアから飛び出すような引っ張るしかけを追加した。しかけの箇所が2箇所から3箇所に増えたことにより、ストーリーの中にインパクトを加えることができた。保護者向け解説部分については文字だけではなく絵も入れたほうがよいという指摘により、図2のCのようにイラストを加えた。その他、イラストの色合いなどを調節し全体的に絵本らしいレイアウトになるように調整した。

§5 絵本の評価と完成

プレ調査などで改訂した絵本をもとに、幼稚園で子供、父母、教員を対象とした現地でのヒアリング調査を行い、絵本の実用性を検証した。実施日は2008年12月で、調査対象は5歳児10名、父母8名、教員1名である。調査方法として、5歳児には絵本の読み聞かせを行いそれに対

する反応をみた。父母と教員に対しては子供向け部分の読み聞かせと保護者向け解説部分の説明をし、それに対するヒアリング調査を行った。調査より「大人向けの防災ガイドはしまいこんでしまうが、子供向けの絵本であれば常に手元に置いておくことができる。」という、保護者向けと子供向けが一緒になっている形式に対する肯定的な評価を得た。しかけに対して子供がとても興味をもち、しかけを通して防災知識の内容を積極的に質問し、考え、理解できていたことから、しかけのある防災絵本という形式が有効であることが分かった。また、子供には「絵本の内容」部分だけを見てもらいたい、というねらい通り、調査中絵本に触れた子供達は「保護者向け解説」部分に気がつかなかった。絵本を折りたたむことで、対象によって異なる、必要な知識を効果的に見せることができることが分かった。

これらの評価をふまえた改訂は主に次の3点である。a) 図2のBにあるひっぱるしかけを、子供に人気のあったマグネットを使用したしかけへ変更した。b) 保護者向け解説部分の知識の「帰宅困難者について」を、保護者から提案のあった「大地震発生時に幼稚園に子供を迎えに行くときの対応」に変更した。また c) 教員から、表現がいまいなため、絵本を通じて子供に感じてほしいことが分かりにくい、と指摘を受けた。そこで、関連する表現が分かりやすくなるよう見直した。

§6 おわりに

子供だけではなく保護者にも防災の意識づけをすることを目的とした防災絵本を作成した。幼稚園で行った読み聞かせによるヒアリング調査の結果から、保護者向けの部分と子供向けの部分がある絵本の形式が子供と保護者の防災意識の向上に有効であることが分かった。

しかし、絵本が子供向けで内容をかなり絞り込んでいたため、それぞれに対しての十分な知識を含めるにはさらなる工夫が必要になる。

調査にご協力いただいた幼稚園の皆様へ深謝する。

【引用文献】

- 1) 小川裕美, 石川孝重, 伊村則子: 幼稚園の教員評価および実習にもとづく早期防災教育としての絵本教材とその評価—市民の防災力向上に向けて その3—, 日本建築学会学術講演梗概集(都市計画), pp.463~464, 2006年9月。
- 2) ベネッセ: 幼児に生活について, http://www.benesse.co.jp/baby_parents/, 2008年6月24日。
- 3) 片山恒雄, 岡田義光, 藤田英輔, 松村正三, 鶴川元雄, 佐藤篤司: 命を守る最新防災辞典, 学習研究社, 初版, 2004年5月9日。
- 4) 日野市役所: 防災の知識, <http://www.city.hino.lg.jp/index.cfm/14,0,61,1500.html>, 2008年6月25日。
- 5) 文部科学省: 学校などの防災体制の充実について第二報告, http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/bousai/06051221/002/003.htm, 2008年6月17日。
- 6) 入澤美樹, 石川孝重, 伊村則子: 防災力を高めるための防災教育に関する研究—その3 幼児自らが学ぶことのできる早期防災教育に役立つ教材開発(2)—, 日本建築学会梗概集(都市計画), pp.759~760, 2005年9月。

*1 ゴールドクレスト

*2 日本女子大学住居学科 教授・工学博士

*1 GOLDCREST

*2 Prof., Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ., Dr. Eng.